

【著者紹介】

岩川ありさ IWAKAWA Arisa

法政大学国際化学部

現代日本文学・クィア批評・トラウマ研究

『変わり身せよ、無名のもの—多和田葉子『猷灯使』論』『すばる』40(4)、2018年3月／「前未来形の文学—小野正嗣『獅子渡り鼻』論』『現代思想』47(3)、2019年2月／「七時のニュース」、「オー・ハニー、モータル・エネミー」小林康夫編著『午前四時のブルー II 夜、その明るさ』水声社、2019年

隠岐さや香 OKI Sayaka

名古屋大学大学院経済学研究科

科学技術史・社会思想史

『文系と理系はなぜ分かれたか』星海社新書、2018年／“Economie and Science in France at the Age of Social Reform (1760–1790): Agronomy, Natural History and Political Arithmetic”, The Foundations of Political Economy and Social Reform: Economy and Society in Eighteenth Century France, London, Routledge, 2017, 179–195／『『有用な科学』とイノベーションの概念史』中島秀人編著『岩波講座現代 第2巻 ポスト冷戦時代の科学／技術』岩波書店、2017年

大橋崇行 OHASHI Takayuki

東海学園大学人文学部人文学科

日本近代文学

芦辺拓編・大橋崇行校訂『少女少女奇想ミステリ王国1 西條八十集』、戎光祥出版、2018年／『言語と思想の言説[ディスクール]—近代文学成立期における山田美妙とその周辺』、笠間書院、2017年／山中智省・大橋崇行編『ライトノベル・フロントライン1(～3)』青弓社、2015–16年／『ライトノベルから見た少女／少年小説史 現代日本の物語文化を見直すために』笠間書院、2014年

飯田祐子 IIDA Yuko

名古屋大学大学院人文学研究科

日本近現代文学、ジェンダー批評

『リブと依存の思想：中絶・子殺し・育てること』坪井秀人編『戦後日本を読みかえる4』、臨川書店(近刊)／『彼女たちの文学 語りにくさと読まれること』名古屋大学出版会、2016年／『彼らの物語 日本近代文学とジェンダー』名古屋大学出版会、1998年

松下千雅子 TANIMOTO Matsushita Chikako

名古屋大学大学院人文学研究科

ジェンダー・セクシュアリティ研究、クィア理論、スポーツ研究

『クィア物語論—近代アメリカ小説のクローゼット分析』人文書院、2009年／“Who's Afraid of the Beast in the Jamesian Closet?”, *Journal of Homosexuality* 64 [12], 2017／共著『トランスジェンダーおよびインターセックスのスポーツ大会への参加条件緩和肯定度—『虹色どまんなかパレード2016』におけるアンケート調査』『スポーツとジェンダー研究』15、2017年(Chikako Tanimoto、谷本千雅子として出版)

高島亜理沙 TAKASHIMA Alisa

名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程

ジェンダー・セクシュアリティ研究、クィア研究

共著“Sport Participation of LGBT and Their Allies in Nagoya: Frequency, Gender Division, and an Alternative Arena”, *Proceedings of GENA Transnational Conference: Gender, Sexuality, and Sports*, 2017／共著『トランスジェンダーおよびインターセックスのスポーツ大会への参加条件緩和肯定度—『虹色どまんなかパレード2016』におけるアンケート調査』『スポーツとジェンダー研究』15、2017年

大崎晴美 OSAKI Harumi

南山宗教文化研究所客員研究員

哲学・思想

Nothingness in the Heart of Empire: The Moral and Political Philosophy of the Kyoto School in Imperial Japan, Sate University of New York Press, forthcoming.／“The Dialectic of Hegel and Nishida: How to Deal with Modernity,” *European Journal of Japanese Philosophy*, European Network of Japanese Philosophy, 2017.／“Pure Experience in Question: William James in the Philosophies of Kitarō Nishida and Alfred North Whitehead,” *Philosophy East and West*, University of Hawaii Press, 2015.

カール・スクーノヴァー Karl SCHOONOVER

ウォリック大学映画テレビ研究学科准教授

単著書に、*Brutal Vision: The Neorealist Body in Postwar Italian Cinema* (University of Minnesota Press 2012)。共編著書に*Global Art Cinema* (Oxford University Press, 2010)、共著書に*Queer Cinema in the World* (Duke University Press 2016)があり、本誌の論考を取めた後者は、2018年3月にフィルム・スタディーズの最高峰の賞であるキャサリン・シンガー・コヴァクス賞(映画メディア研究学会、SCMS)を受賞。最近発表された論文では、アート・フィルムにおける労働、人権運動における映画の役割、エコドキュメンタリーを論じてきた。現在は、ゴミ管理・処理のメディアとしての映画について単著書を書き終えようとしているところである。

ロザリンド・ガルト Rosalind GALT

ロンドン大学キングス・カレッジ 映画研究教授

単著書に、*The New European Cinema: Redrawing the Map* (Columbia University Press, 2006)、*Pretty: Film and the Decorative Image* (Columbia University Press, 2011)。共編著書に*Global Art Cinema* (Oxford University Press, 2010)、共著書に*Queer Cinema in the World* (Duke University Press 2016)があり、本誌の論考を取めた後者は、2018年3月にフィルム・スタディーズの最高峰の賞であるキャサリン・シンガー・コヴァクス賞(映画メディア研究学会、SCMS)を受賞。

清水徹 SIMIZU Tooru

早稲田大学大学院文学研究科大学院生

江戸儒学(特に伊藤仁斎)・日本近代美術論・文学論(特に坪内逍遙)

『坪内逍遙の小説に表象された女性観—『当世書生気質』『妹と背かゞみ』『細君』『巢守の妻』を素材に』『解釈』64(11・12)、2018年12月／『美術としてのノベル小説の成立—『小説神髓』における「人情」を手がかりに—』『國學院雑誌』119(1)、2018年1月／『『遊学八少年』から『当世書生気質』へ—構成・趣向における『牡丹灯笼』の影響—』『解釈』63(7・8)、2017年8月

小河淳寛 OGAWA Atsuhiko

株式会社アイディーサービス所属(東海大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期 出身)
近現代沖縄文学・有害鳥獣対策(主にアライグマ)

『椿説弓張月』論—(暴力)の構造—『湘南文学』48、2014年3月／
『東峰夫「オキナワの少年」論—「オキナワ」内部の差異性』『文学・語学』217、2016年12月／『山城正忠「手紙「淡路町」の女」注釈』『東海大学日本語・日本文学 研究と注釈』6、2017年12月

盧 銀美 NO Eunmi

名古屋大学大学院人文学研究科博士研究員
映像学、映像文化、日本映画

『日本映画のトーキー移行期におけるヴォイス・オーバー——1930年前後の「同時性」と「非同時性」をめぐって』『名古屋大学人文学フォーラム』第2号、2019年

陸洋 LU Yang

名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士後期課程
近現代中国女性文学・近現代上海大衆文化と比較文学

『張愛玲の小説「霸王別姬」と「傾城之恋」—京劇の引用をめぐって』『人文学フォーラム』、2017年1月／『他者化への抵抗—「連環套」の驚喜像について』『中国研究月報=Monthly journal of Chinese affairs』72、2018年6月／『張愛玲の香港陥落体験—散文「爐餘録」から自伝的小説The Book of Changeへ』『野草』102、2019年4月

名取雅航 NATORI Masakazu

名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程
金沢大学、富山大学非常勤講師(映像学、英語)
戦後日本映画

『电影改编作品中被编辑的男性：以《自由学校》(1951)与《女之园》(1954)为例』『当代电影(Contemporary Cinema)』、Vol. 227、2015年2月

廣瀬陽一 HIROSE Yoichi

大阪府立大学非常勤講師・同大学客員研究員
日本近現代文学・在日朝鮮人文学

『金達寿とその時代—文学・古代史・国家』クレイン、2016年／編著『金達寿小説集』講談社文芸文庫、2014年／『在日朝鮮人から見た「転向」の言説空間—金達寿文学における〈親日〉表象を通じて』坪井秀人編『戦後日本を読みかえる5』臨川書店、2018年

松本海 MATSUMOTO Kai

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程
日本近現代文学

『初期中上健次の文学的基盤の確立——「文藝首都」を中心に——』『織』第25号、2012年／『中上健次・短篇小説「天鼓」における古典受容：雑誌『風景』での掲載をふまえて』『牛王』10号、2016年／『中上健次「浄徳寺ツアー」における〈語り〉の試み——〈語り物〉文芸の受容と、老婆の〈語り〉——』『第41回 国際日本文学研究会集會議録』、2018年

霜山 博也 SHIMOYAMA Hiroya

名古屋芸術大学、豊橋創造大学非常勤講師
西洋哲学(現代思想)、美学、情報創造論

“A Deconstruction of Robot Ethics through the Concept of the ‘Robomot’”, *Envisioning Robots in Society—Power, Politics, and Public Space, Proceedings of Robophilosophy 2018 / TRANSOR 2018*, IOS Press, 2018. / 「シモンドンの情報システム論—構造と操作から—」、中部哲学会、『中部哲学会年報』、2014年 / “Gilles Deleuze’s philosophy and the aesthetic of ‘outside’”, the conference full paper in the fourth CCPEA, 2018.

栗田 秀法 KURITA Hidenori

名古屋大学大学院人文学研究科
美術学・西洋美術史

『ブッサンにおける語りと寓意』(三元社、2014)／共著『イメージ制作の場と環境：西洋近世・近代美術史における図像学と美術理論』中央公論美術出版、2018年／編著『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房、2019年

星野 幸代 HOSHINO Yukiyo

名古屋大学大学院人文学研究科
近現代中国文学、近現代日中比較舞踊史

『日中戦争下のモダンダンス—交錯するプロパガンダ』汲古書院、2018年／『日本・中国・朝鮮の眼差しの中の舞踊家・崔承喜』『越境する中国文学—新たな冒険を求めて』東方書店、2018年／『日本国内をめぐった戦時慰問舞踊—石井みどり舞踊団1941–1945』、『JunCture』09、2018年

茂登山清文 MOTOYAMA Kiyofumi

名古屋芸術大学芸術学部
視覚文化、ヴィジュアルリテラシー

『ヴィジュアルリテラシー スタディーズ』(共・編著)、中部日本教育文化会、2017／『情報デザインベシクス』(共・編著)、ユニテ、2008/2007

梶川瑛里 KAJIKAWA Eri

名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程
映画・アニメーション史、サウンド・フィルム研究、聴覚文化

『「桃太郎 海の神兵」におけるユートピア的共同体の視聴覚性』台湾大学、2016年5月／『重力と落下——『くもとちゅうりっぷ』における空間表象と運動表現』名古屋学芸大学、2018年3月／『狭間を想像する——日本アニメーションの歴史的考察』名古屋大学、2018年11月

魏晨 WEI Chen

名古屋大学大学院人文学研究科博士研究員
日本文化学

『「満洲」童話作家・石森延男の登場—満鉄社員機関誌「協和」における創作活動をてがかりにして』『跨境 日本文学研究』1、2014年6月／『「満洲」育ちの童話作家・山田健二—「満洲」次世代の主体性を描くということ』『名古屋大学国語国文学』110、2017年11月／『交錯するまなざし、齟齬する満洲夢——「綴方日本」と「綴方満洲」の比較から見る日満関係のポリティクス』『名古屋大学人文学フォーラム』1、2018年3月